

生駒市市政顧問が従事した職務の遂行に係る情報

議 題	<p>1. 学校・教育</p> <p>2. こども・子育て支援</p> <p>3. 健康づくり・医療</p> <p>4. 生活環境</p> <p>5. 脱炭素・循環型社会</p>
日 時	令和 7 年 5 月 19 日（木） 10：00 ～ 16：30
場 所	特別会議室
出 席 者	<p>市政顧問</p> <p>市長、副市長</p> <p>教育長、教育部長、教育部次長（議題1, 2）</p> <p>子育て健康部長、同部次長、健康課長、こども家庭センター所長、地域医療課長（議題2, 3）</p> <p>地域活力創生部次長、環境保全課長、同課課長補佐（議題 4, 5）</p> <p>総務部参事、防犯交通対策課長、消費生活センター主幹（議題 4）</p> <p>SDGs・公民連携推進課長、脱炭素まちづくり推進課長、同課課長（議題 5）</p> <p>CDO、経営企画部長、企画政策課長、企画政策課企画官</p>
主 な 意 見 （概要）	<p>1. 学校・教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員確保の取組は、移住促進とセットで考えられる。担当部局と教職免許を持っている人への優遇などを一緒に考える等、もう少し幅広に他の部局がやってることで教育と繋がれることがあるのではないかな。 ・DXの取組について、デジタルを使った業務の効率化や、先生が先生しかできないことに注力できるようエバンジェリスト的人材の登用も考えられる。また、デジタル化の必要性を説明する人材と実際の問題に対応する人材は別なので、先生を採用するときも経験のある先生を採用するなど、有機的にいろいろな問題をまとめて解決できるような形にしていかないと 1 個 1 個に対応してたらどう考えても人足りない。 ・教育としてコアな部分はやらなければいけないが、学校区のまちづくりにおいては、他の部局と一緒にそれぞれどういった特色のある地域にデザインしていくかという議論が必要。

- ・アプリ(すぐーる)も少し分析した方が良い。5月に不登校が増えるのならば、親は「こどもが学校に行ってくれない。」と悩む。そのタイミングでどういうメッセージをどのように送れば読む気になるのかとか、もしくは何日間か登校しなくなった児童・生徒の親にだけ見てもらえるような送り方があるのかといったことも考えられる。
- ・防災の連絡も地域でなかなか伝わらないとか、教育だけではなく、他の部局もいろいろなサービスを市で用意しているが伝わっていないなど、それぞれの部局でも同じ問題がある気がするので、一つひとつの問題の解像度を上げて調べていくと改善への応用ができる。

2. こども・子育て支援

- ・「関西の中で子育てするなら生駒市」というブランディングをどうするか。東京では流山市が話題になる。結婚したらとりあえず生駒市に住んで、こどもを産むにも育てるにも生駒市が一番というのが理想なので、幼稚園、保育園は大事。
- ・子育て中の先生や保育士さんが本人の理想の教育や保育ができて、自分のこどももここで育てたいと生駒市に移住してくれることが理想。
- ・生駒では森の幼稚園的なこともできるし、モンテッソーリ教育的なこともできるので、それを目的に生駒市に引っ越しましたという人があっても良い。科学的にそこをしっかりと担保することを考えると、大阪や奈良で幼児教育やってる大学の学科と連携するとか、大学の専門課程を生駒市に移してもらおうとか、奈良先端大と連携してもらって専門過程の一部を奈良先端大の学舎を使いながら、生駒市の保育所や幼稚園を見てもらうとか、アウトオブボックスでいろいろ考えてみたら面白いことができる。
※モンテッソーリ教育:こどもが自ら成長する力を大切に、自主性や好奇心を育てる教育法
- ・教育過干渉による不登校への対応について、世界中で教育分野はいろいろな研究があるから、教育過干渉のこどもの将来がどうなっているかという研究を調べてみてはどうか。それをエビデンスベースで発信しておくことで、「あなたが過干渉です」と言わなくても、「こどもの未来を考えるとそういうリスクがある」というようなことを伝えられるとか、そういうチェックリストを作って市広報に載せておくとかできることはいろいろある。
- ・少しずつ外国人も増えている中で特定技能実習生が増えていくと、いずれは家族帯同ができるようになる。そういう人たちの子育てや幼稚園・保育園の受け入れなど、生活面のサポートも考えていく必要がある。また、それを国際的な学びなどプラスに使う方法もある。
- ・市内事業所も職員採用に苦勞してるはず。保育支援が充実した子育て

しやすい会社ならば、求人や採用に有利に働くので、そういうことを一緒に考えませんかという働きかけもある。

3. 健康づくり・医療

- ・高齢などにより閉院された開業医の先生方が、まちのえき等で緩くアクセスできるようになっていただけると良い。
- ・健康アプリは、アプリ単体ではなく商工系や交通系との連携も視野に入れて部局横断的に検討してはどうか。
- ・アドバンスケアは遺贈や医療費削減という意味でもすごく価値がある。
- ・「私ノート(生駒市版エンディングノート)」もアプリに入ると良いし、利用状況もKPIに入るポイントになる。また、親の介護が発生する段階でこども自身が自分の私ノートを書くことで、親にも促すことができる。展開の仕方を考えることでいろいろな部局と繋がって、市にとってプラスになる。
- ・市民が利用したくなるような取り組みを事業者や大学と連携して検討できれば。例えば、熊本県荒尾市では官民連携の取組として、少量の血液で「将来の病気発祥リスク」がわかるフォーネスビジュアス検査を導入し、検査結果と合わせて生活習慣改善プログラムを提案する施策を大学とも連携し行っている。
- ・再生医療を扱う総合診療があっても良い。例えば膝関節の治療では多くが薬物療法や人工関節への置き換え手術が行われているが、血小板を抽出して膝関節に注入する再生医療などもある。再生医療のニーズがある地域ならば、実証をやりませんかとスタートアップを誘致しても良い。

4. 生活環境

- ・ゴミが落ちていない環境にするという基本的な美化も重要だが、逆にまち全体が美しいかどうかという観点もある。幹線道路沿いなどの街並みも含めた環境美化とは何かという議論が市民を交えてあっても良いし、議論の中で地域の課題が市民の間で出てくることが、環境悪化への一つの抑止力にもなる。
- ・近隣トラブルの相談は、近隣とのコミュニケーションが悪いがゆえに、市役所の皆さんに何とかして欲しいという相談なので、自治会や自治会担当課とその問題への対応と一緒に議論する等、この部局だけで頑張っ解決しようとしなくて良い。
- ・外国人の市内在住が増えているが、一番始めの問題はゴミの捨て方になる。多言語対応やコミュニティなど他の部局と連携して対応すると良い。
- ・特殊詐欺対策は、健康づくりの施策で行う市民とのコミュニケーションの

中に一緒に入れていくなど、届け方はいろいろある。

- ・防犯や交通事故のデータの解像度を上げて地図上にプロットし、傾向と対策を分析するような、デジタル専門家によるハッカソンも考えられる。
- ・学校での取組でも、交通安全ポスターのコンテストなどもあるが、夜の視認性など実際の場面での交通安全をみんなで考えるような時間を取っても良い。

5. 脱炭素・循環型社会

- ・EV（電気自動車）の充電ステーションが少ないので、まちのEV化率が施策目標になっても良い。市内のディーラーとの連携も考えられる。
- ・リユースの促進として、先端大の留学生や外国人労働者向けの食器等の配布もニーズがあるし、大学や企業と一緒に施策の展開を考えることもできる。例えば、リユースする品物を画像認識でNFT化しておけば、その後ずっと使われていく経緯がわかるので、環境教育のひとつとしても面白い。
- ・アドバンスケアの取組と連携したリユースプロジェクトも考えられる。「ゴミ」ではなく「資産」として捉え方を変換させるよう、庁内の部局と連携してはどうか。
- ・高齢化に伴い、問い合わせが増加するという前提で業務プロセスを見直しする必要がある。特にゴミの分別関連についてはAIの活用が有効。ゴミをスマートフォンで撮影すると分別を教えてくれるアプリもある。
- ・若手職員に、業務関連のスタートアップを調べてもらい、その中で活用できるものがあれば、市でスタートアップを表彰する制度があっても良い。
- ・「環境にやさしいまち」では手触り感がないため、ライフスタイル変換のためのキーワード（共有の言葉）が必要。例えば「もったいない」といった言葉を思いながら、モノを使ったり買ったりすることがひとつのきっかけになる。